



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/2 (月)	+ 100	▲ 39,700	▲ 39,600	国債発行償還 (2年)	国債補完供給 成長基盤 +3,600 ▲7,900		日：日銀の氷見野副総裁が 和歌山県金融経済懇談会で講演 欧：ユーロ圏製造業PMI (2月)
3/3 (火)	+ 1,000	▲ 30,000	▲ 29,000				日：植田日銀総裁のあいさつ ：失業率 (1月) 欧：ユーロ圏CPI (2月)
3/4 (水)	トン	▲ 49,000	▲ 49,000	国債発行 (10年) 法人税・消費税・保険掛け	共通担保 ▲8,000		米：ページブック ：ADP雇用統計 (2月) 欧：ユーロ圏PPI (1月) ：ユーロ圏失業率 (1月)
3/5 (木)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000				日：春闘での要求集計結果 欧：ラガルドECB総裁の講演
3/6 (金)	+ 1,000	▲ 7,000	▲ 6,000	国債発行 (30年)			米：失業率 (2月) 欧：ユーロ圏GDP (4Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5,400億円減少の459兆6,700億円から始まった。その後、国債の発行償還、各種財政資金の支払い等の要因により増減し、27日は461兆1,300億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.710%~0.950%のレンジ、1M~3M物0.810%~1.150%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では2日に日銀の氷見野副総裁が和歌山県金融経済懇談会で講演、5日に春闘での要求集計結果の公表、海外では4日にページブックの公表、5日にラガルドECB総裁の講演、6日に米失業率（1月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.85 ~ 0.95
2M	0.90 ~ 1.00
3M	1.00 ~ 1.20
6M	1.00 ~ 1.30

<レポ>

足許GCは週を通して+0.75%~+0.755%の狭いレンジで取引された。月末を跨ぐ取引となる26日には、買入れオペもあったが水準に変化は見られず+0.75%近辺の出合いとなった。SC取引は2年470~480回債、5年155~182回債、10年356~371、378~380回債、20年110~130回債、30年86~88回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.90 ~ 1.10

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆4,603億円で、週間償還額の3兆3,805億円を下回った。発行残高は、先週末時点の26兆6,403億円から、2月26日時点で26兆9,505億円へと増加した。発行市場では、不動産業・食品品業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.80%台から1.0%台、3ヶ月物で1.0%近辺から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆5,000億円となっている。発行市場は、決算期末に向けた有利子負債の圧縮が進むことから、ショートターム物中心になると思われる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を見極める展開が続くだろう。

<TDB>

27日の3M (1365回債) の入札は、最高落札利回り0.7836% (前回債0.7781%)、平均落札利回り0.7715% (前回債0.7573%) となった。来週の入札は3月6日に3Mが予定されている。